いわて復興だより

がんばろう!岩手 つながろう!岩手

三陸旗興

第 102 号

平成 28 年 3 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

震災から5年が経ち、「本格復興完遂年」として、沿岸地域では新しいまちづくりが進められています。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

あの日から5年

東日本大震災津波岩手県・大船渡市合同追悼式

大船渡市



追悼式会場に設けられた祭壇

式辞を述べる達増知事



献歌を捧げる児童

東日本大震災津波から5年を迎えた平成28年3月11日(金)、岩手県と大船渡市の合同追悼式が大船渡市民文化会館(リアスホール)(同市盛町)で開催され、ご遺族や関係者等約730人が参列しました。

追悼式では、政府主催式典の映像が生中継され、地震が発生した午後2時46分には、参列者全員で黙とうを捧げました。

達増知事は、「私たち岩手県民は、 犠牲になられた方々のふるさとへの 想いを受け継いで、この東日本大震 災津波の経験と教訓を後世に伝えて いくよう努めながら、復興の道を歩 んでいかなくてはならない。全ての 岩手県民が心をひとつにして復興を 成し遂げ、いのちを守り、海と大地 と共に生きるふるさと岩手・三陸の 創造を実現する。」と式辞を述べまし た。 また、ご遺族を代表して、北里大 学海洋生命科学部に通っていた娘の 佳苗さんが現在も行方不明となって いる瀬尾眞治さん(東京都)が、「娘 が沢山の方たちと結び付けてくれた 絆を大切に、佳苗の分までしっかり 前を向いて生きていこうと思います。 復興には、まだまだ時間がかかりそ うですが、わたしたち家族は、大震 災を風化させないために、語ってい くことが与えられた使命だと思います。」と追悼の言葉を述べました。



亡くなられた方へ想いを寄せる参列者

このあと、児童代表の吉田琴美さ ん (大船渡市立赤崎小学校6年生) は、「震災当時は、私たちはあまりに 幼く、様々なことを理解し受け止め ることは出来ませんでした。しかし 今は、本当に沢山の様々な方々がく ださったエールのおかげで、今日ま で元気に明るく過ごすことが出来た ことを実感しています。これからは、 私たちがこの故郷のために、これま で支えてくださった沢山の方々から いただいた暖かい心をお返ししてい こうと決意しました。」と述べ、大船 渡市立赤崎小学校と蛸ノ浦小学校の 児童が、献歌として「旅立ちの日に」、 「花は咲く」を犠牲者に捧げました。

東日本大震災津波により、岩手県では、5,131 人(直接死4,672人、関連死459人)の尊い 命が奪われ、今もなお、1,124人の方々が行方 不明になっています。

(平成 28 年 2 月 29 日現在)

ふるさと納税未来大賞に「いわての学び希望基金」選出

三陸だより

平成28年2月11日(木)、東京都内で「ふるさと・いいこと・フェア」(ふるさと知事ネットワーク主催)が開催され、岩手県の「いわての学び希望基金」の取組が、ふるさと納税制度を有効に活用して優れた取組を行っている自治体として「ふるさと納税未来大賞」を受賞しました。「いわての学び希望基金」はふるさと納税制度などにより全国の皆様から寄付をいただき、被災地の子ども達への様々な支援に活用されています。



ふるさと納税未来大賞を受賞する岩手県総務部長

県立高田高等学校 新校舎での初の卒業式

陸前高田市

平成28年3月1日(火)、東日本大震災津波で全壊した岩手県立高田高等学校(陸前高田市)の卒業式が行われました。高台に再建された新校舎での卒業式は震災後初めてとなります。

卒業生 161 人(普通科 146 人・海洋システム科 15人)は、入学時から 2 年間、約 20 キロ離れた大船渡市にある大船渡東高等学校萱中(かやなか)校舎を仮校舎とし、スクールバスで通学。昨年 4 月から陸前高田市の新校舎に移り、高校生活を過ごしました。

卒業生代表の磯谷茉佑(まゆ)さんは、「国内外を問わずたくさんの人から支えられて、今現在があることに心

から感謝しています。地域と社会に貢献できる人間になれるよう、精進していきたいと考えています。」と誓いました。

震災を乗り越え、卒業 式を迎えた生徒は、希望 に満ちた新たな一歩を踏 み出しました。



卒業証書を受け取る生徒 (写真提供:陸前高田市)

地元卒業生へ心温まるメッセージ 久慈市 三陸鉄道・久慈駅

三陸鉄道北リアス線・久慈駅が、卒業を迎えた高校生 に向けてメッセージボードを設置しました。

このメッセージボードは、久慈駅の駒木健次副駅長が、

三陸鉄道で通学した卒業生に、利用してもらったことへの感謝と激励の気持ちを込めて贈ったものです。

心温まるメッセージ ボードに地元の高校生 のみならず、インター ネット上で静かな感動 を呼んでいます。



設置されたメッセージボード

高校卒業おめでとう

〜津波・5年・旅立ち〜 海が盛り上がって、車が流されて、そん な映像なんか見たくない。

小学生のころ、家族で見た夏の碧い海がいい。

みんな前を向いて生きろと言っても、マイナスからの出発環境なんて辛すぎる。 そんなことを言っている君たちの心の真ん中が心配です。

どうかその分「いいこと」がたくさん訪れますように…。

世間の波に呑み込まれないように、どうか皆さま助けてあげてください。

あまちゃん北三陸駅で通学したことが、これから先、何かの機会に人生の糧となることを願っています。本当に、みんなみんな愛おしい。そして「さんてつ」を利用してくれてありがとう。心からお礼申し上げます。

高校卒業おめでとう!みんなに幸あれ! 三陸鉄道 久慈駅

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第53回目は、菅野 祐太さんを紹介します。

PROFILE

神奈川県横浜市出身。

大学卒業後、株式会社リクルートエージェントに入社。 平成23年9月、被災地の子ども達の学習指導と心の ケアを行う、放課後学校「コラボ・スクール大槌臨学 舎」の立ち上げに参画し、平成23年12月、同校を設 立。代表として現在に至る。

■地域とコラボする子ども達の学びの場

子ども達が安心して学べる環境を作り、自発的に学ぶことを目指す「コラボ・スクール」は、 平成23年7月、宮城県女川町で開校しました。

大槌町は、他の沿岸地域に比べ子ども達の仮設住宅の入居率が高く、狭い仮設住宅では勉強の場と生活空間を分けることが困難でした。そんな大槌町での開校が切望される中、平成23年12月、放課後学校「コラボ・スクール大槌

未来の さんりく びと ***

認定特定非営利活動法人カタリバ コラボ・スクール大槌臨学舎代表 菅野 祐太(かんの ゆうた)さん



管野さんからのひと言: 子どもたちは岩手復興の 希望です。ぜひ応援を!!

臨学舎」が開校。現在、小中高校生合わせて約 200人が登録し、1日100人程度が通っています。

「通常の私塾とは異なり、"コラボ"と名が付くように、教育委員会や学校等と情報交換を通して連携し、大槌町の目指す教育をベースに運営しています。」と代表の菅野さんは話します。

▋課題を"自分事化"して考え取り組む

同校で高校生は、自習すると同時に地域の課題を自分で見つけ、自分で行動してみる"マイプロジェクト"に取り組んでいます。

「都会の子どもに比べて"何かを学ぼう、何かを変えたい"という意識が高く、"マイプロジェクト"の中では遠くの問題ではなく、身近にある課題をどうやったら解決出来るかを真剣に考えています。周りにある課題を自分の事だと思い解決していく"自分事化"です。」と、菅野さんは子ども達の変化を感じています。

今後は、"勉強サプリ"など、ITを活用した学びの場の提供が期待されます。

岩手県の被害状況

平成 28 年 2 月 29 日現在

▶人的被害 死者(直接死): 4.672 人 行方不明者: 1.124 人

▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,168 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆さんのご支援、ありがとうございます 平成28年2月29日現在

▶義援金受付状況 約 184 億 4.871 万円 (92.852 件)

▶寄付金受付状況 約197億3,202万円(7,653件)

▶いわての学び希望基金(※)受付状況 約79億6,499万円(17,318件)
※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web 】 もご覧ください!! http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより 第 102 号 平成 28 年 3 月 15 日号 企画・発行:岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷:シナプス